

令和4年 事業報告（R4年1月～R4年12月まで）

押し花合同会社 花ことば
代表社員 押川 亘

事業報告

当事業所は、6年目を迎えた。

昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響がみられた1年で、8月には当事業所も開所できず、2週間ほどお休みをいただいた。事業所職員間で感染が見られ、数名の熱発者が見られ、開所できない状況となった。幸いなことに、児童への感染拡大は見られず、お盆明けより通常営業に戻り、10月ごろより日常に戻る事ができたと思う。少しずつ新型コロナウイルスの感染に対する認識も変化し始め、感染が広がりを見せていても、感染対策を行いながら開所を行う事ができるよう対策を講じた。

当事業所では、次亜塩素酸の消毒を利用し、体温測定、手指消毒、おもちゃの消毒、個々のタオル使用(紙タオルも含)など感染しない、広めないためにできる事を考え実施している。

新型コロナウイルスの影響で研修等も減っているが、Zoomで研修や会議に参加するようになり、昨年に比べると外部研修に参加することが増えてきている。

児童発達支援では、未就学児（保育園や認定こども園等に通園している子どもも含）に対して、季節行事に合わせた製作や身体を使った遊び、ことば遊びを行うなど活動を取り入れながら活動を行ってきた。子どもの発達段階を見ながら、できる事や支援しながら行う事など職員間で、情報共有しながらすすめるよう対応している。

放課後等デイサービスでは、カードゲームやルールのある遊びを行い、お友達と交渉をしながら関わるよう支援を行った。お友だちと一緒に活動をする、遊ぶという事の楽しさを支援している。また、児童発達支援・放課後等デイサービスでは、言語聴覚士との個別療育を行っている。個別療育は、視覚的課題を言語化し、ヒアリング向上や語彙理解向上に努めること、発信することを認め、伝達することやコミュニケーション力を高めるよう努めている。言葉数が少なく、思いを訴える事が不十分な児童や発音の不明瞭さがあり、伝わらない思いをしている児童、行動で表現している子どもや目で訴えている児童に対して、代弁や言葉の使い方を示す事でやり取りができる事を伝えるよう支援を行ってきた。

保育所等訪問支援では、新型コロナウイルスの影響を見ながら、言語聴覚士や保育士が訪問している。集団生活の中で子どもが困っている先生の指示が伝わらない、言語表出が苦手など困り感や苦手としているところに対して支援方法について検討や助言することができた。

◎多機能型事業所

児童発達支援事業		
対象者	未就学児	1日4～6名受け入れ
定員	放課後等デイサービスと合わせて 10名	
営業曜日、時間	月・火・水・木・金9：00～17：00	

放課後等デイサービス		
対象者	就学時（18歳未満）	1日4～6名受け入れ
定員	児童発達支援と合わせて10名	
営業曜日、時間	月・火・水・木・金15：00～17：00	

※夏季休暇などの学校休業日は上記に限らない場合有り

保育所等訪問		
対象者	未就学児、18歳以下の児童	
定員	制限なし	約30名/月
営業曜日、時間	月・火・水・木・金9：00～17：00	